

(資料2)

病気とバイタルフォースに対するホメオパシー医とアロパシー医の認識の違い

## オルガノン序章の要点

ハーネマンは、当時の主流医学の問題点を批判して、真の医学であるホメオパシーが、なぜ理に叶うものであるかを述べている。特に以下の第四・五節に、彼の考えが集約されている。

### ◆第四節:病気の考え方に対する批判

病とは何か？＝当時の主流医学の医師たちは、病気の原因は病原物質があるから・・・と考えて、それを取り除くことが治療だと考えた。(瀉血・嘔吐剤・下剤・排膿処理など)

そしし、病とは、物質的なものではない。

目には見えない生命力(バイタルフォース)が攪乱された状態のことを言う。

### ◆第五節:治療法に対する批判～自然の模倣

生命力(バイタルフォース VF)は、健康な状態では、素晴らしい働きをして、人間を調和的な健康状態のまま維持する力がある。(オルガノン § 9)

ところが、健康な状態から病気の状態になると、VF は、十分に働くことが出来なくなってしまう。自力で、健康を回復しようと自助努力(分泌・排泄・下痢・嘔吐・膿瘍)をするが、それは不完全で、健康の回復には至ることが出来ない。(生命維持力しかない。)

アロパシー医は、自然は素晴らしいから真似したら良いと受け止めて、その不完全な自助努力の部分的な模倣をすることが治療だと考えた。それは、治癒どころか、不完全且つ一部分の模倣しかしないために、そして、その模倣を過剰に繰り返してしまうことで、むしろ生体全体に対して有害になり、別の病気にさせたり、衰弱させ、死なせてしまうことすらある。そのことは、これまでの経験を見れば、明らかである。

病気の状態においては、VF は色々なことをするものの、治癒に至るだけの知性を欠いているため、軽い急性病以外は決して回復出来ない。

そこに知性を与え、治癒への方向性を指し示すことが出来るのは、ホメオパシーだけである。

つまり、治癒のための知性の優劣は・・・

1. ホメオパシー的考え方、ホメオパシー医師(真の治療家)
2. バイタルフォース(生命力)
3. アロパシー(アンチパシー)的考え方、アロパシー(アンチパシー)医(通常医療)

・・・ということになる。

## ＜プリズム理論＞

外部環境 ExcitingCause の存在(有害因子)

Sensation＝固有の感覚

バイタルフォース＝本当に起きていることは隠されたまま(ブラックボックス)

Function＝様々な反応＝(症状像)

これらは、病そのものでもある

現れてきた症状の一部を模倣するか、抑圧する＝アロパシー医学

「現れて来た症状の全体像と似たもの」を投与する＝ホメオパシー医学